



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

東京都 文京区立第一中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：岡里明美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年6月4日(火)

■クラス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会のバスケットボール競技に出場したと自己紹介。現役時代はアケと呼ばれていたもので、皆もアケ先生と呼んでほしい。オリンピックバリューについて説明後、運動の時間は何事にも積極的に挑戦し、仲間と協力し、話を聞く時は床にボールをつかないことを約束してほしい。準備運動は、1個ずつバスケットボールを持ち、ドリブルや体の周りでボールを回す、ボールを頭上に投げる間に拍手をする等、ボールに慣れる運動を実施。その後ボールを持ったまま柔軟体操を行う。

○主運動等



・2人組または3人組を作り、中央に置いたバスケットボールを取り合うゲームを実施。ボールの合図以外は体の部位に触れ、ボールの合図で中央のボールを取り合う。主運動の1つ目はパス回し競争を実施(全3回)。班毎に円を作り、20秒間足踏みをしながら両隣以外の人にパスをする。途中で落としたり初めから数え直し、連続でパスできた回数を競う。2回目からはボールを2個に増やし、途中作戦タイムを設けながら行う。



・主運動の2つ目はシュート競争を実施(全2回)。各班バスケットボールを5個持ち、1列に並び順番にシュートを打つ。5個全部入ったら大きな声でアケ先生を呼び、シュートが完了したタイムを競う。皆がルールを守り真剣に取り組んでいたことはとても素晴らしい。座学の時間は、運動の時間を振り返り、皆にとってのオリンピックバリューが何かを考える時間にしよう伝え、授業終了。

■オリンピック：岡里 明美 先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年6月4日(火)

■ク ラ ス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介後、皆にとってオリンピックは、世界一を決める大会という印象があるかもしれないが、近代オリンピックの創設者であるピエール・ド・クーベルタンがオリンピックを開催する本当の目的は、言語も違う世界各国のアスリートがスポーツを通して交流を深めることで社会の発展を促し、世界平和に結びつけることだ。オリンピックバリューはオリンピックに出場した選手だけのものではなく、皆の日常生活にも深く関わりがあり、必ず今後に生かすことができる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問①：運動の時間に、できたこと、挑戦したことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発問②：日常生活の中で、できたこと、意識していることをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「諦めずにシュートを打つ」「一生懸命取り組む」「勉強も部活動も努力する」「後輩に技術を教える」等

フレンドシップ：「チームワークを大切にする」「応援する」「思いやりを持つ」「コミュニケーションをとる」等

リスペクト：「ルールを守る」「友達意見を聞く」「挨拶をする」「助け合う」「人の物でも落ちていたら拾う」「校則を守る」等



・座学の時間を振り返り、皆の日常生活や学校生活での行動の全てがオリンピックバリューに当てはまる。特にリスペクトについて、友達や家族に感謝するだけでなく、自分自身のことにもリスペクトしてほしい。目標や夢を叶えるために、これから沢山の人と出会い、多くの経験をしてほしい。経験が自信になり成長につながる。オリンピックバリューを忘れずに、自分を信じて様々なことに挑戦してほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：岡里 明美 先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年6月4日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会のバスケットボール競技に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明。運動の時間は、バスケットボールを使いながら誰もが楽しめる運動を行うので積極的に取り組んでほしい。準備運動は1個ずつバスケットボールを持ち、ドリブルや体の周りでボールを回す、ボールを頭上に投げる間に拍手をする等、ボールに慣れる運動を実施。その後、ボールを持ったまま柔軟体操を行う。

○主運動等



・2人組または3人組を作り、中央に置いたバスケットボールを取り合うゲームを行う。ボールの合図以外は体の部位に触れ、ボールの合図で中央のボールを取り合う。主運動の1つ目はパス回し競争を実施(全3回)。班毎に円を作り、20秒間足踏みをしながら両隣以外の人にパスをする。途中で落としたら初めから数え直し、連続でパスできた回数を競う。2回目からはボールを2個に増やし、途中作戦タイムを設けながら実施。作戦を尋ねると、時計回りにパスを出す、パスを出す相手を決めておくなど答える。



・主運動の2つ目はシュート競争を実施(全2回)。各班バスケットボールを5個持ち、1列に並び順番にシュートを打つ。5個全部入ったら大きな声でアケ先生を呼び、シュートが完了したタイムを競う。皆で作戦を考え協力したことで、意思疎通ができていた。座学の時間は、自身の経験を話し、オリンピックバリューが皆の日常生活にどう関わっているかを一緒に考える時間にしたと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2024年6月4日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介の後、オリンピックシンボルについて5大陸を表し、背景の白を合わせた6色で世界中の国旗が描けると説明。地元から離れた高校に進学し、勉強との両立や厳しい練習に耐えることができたのは、両親への感謝と、同じ夢を持った友達がいたからだ。その友達とは日本代表選手になって初めて同じチームになり、お互いがライバルであり、よき理解者だった。友達の存在が自身の成長に大きく影響し、今でも大切な友達だ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問①：運動の時間に、できたこと、挑戦したことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発問②：日常生活の中で、できたこと、意識していることをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「最後までシュートを打ち続ける」「あきらめない」「勉強を毎日コツコツやる」「何事も楽しむ」「全力」等
 フレンドシップ：「褒め合う」「励まし合う」「会話をする」「相手の気持ちを考えて行動する」「気遣う」「応援する」等
 リスペクト：「フェアプレー」「アドバイスをする」「相手に敬意を払う」「後輩にやさしく接する」「目を見て話す」等



・座学の時間を振り返り、普段の日常生活や学校生活にオリンピックバリューが存在していることを理解してくれたと思う。特に大切なことは、両親や友達をリスペクトするだけではなく、自分自身をリスペクトすることを忘れないでほしい。可能性の塊である皆は、その可能性を信じて行動することで自信につながる。今年はパリ2024大会が開催される。オリンピックバリューを思い出し身近に感じながら応援してほしい。皆が自ら決めて進んで行く道を応援していると話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

